

エリアブランディング構想（御幸の浜海岸・かまぼこ通り周辺）策定事業

第1回研究会 議事録

1. 開催日時

令和7年（2025年）1月29日（水）午後6～8時

2. 開催場所

小田原市役所7階 大会議室

3. 出席者等

鈴木大助（小田原市漁業協同組合）

大浦航平（小田原市漁業協同組合）※欠席

飯田順彦（小田原箱根商工会議所/経営支援一課長）

野澤尚和（青物町商店会）

水野健太（宮小路商店会）

鈴木智博（小田原蒲鉾協同組合）※欠席

杉山勇人（小田原蒲鉾協同組合）

脇谷和孝（小田原かまぼこ通り活性化協議会/会長）

小西里奈（小田原かまぼこ通り活性化協議会/広報担当）

瀧澤千恵（小田原市観光協会/主事）

橘川健人（小田原ガイド協会/副会長）

川瀬香智子（小田原ガイド協会）

奥津英之（小田原サーフィン協会/常任理事）

竹田將俊（万年地区住民代表/万年地区青年会連合会長）

柏木隆良（幸地区住民代表/三の丸小学校 PTA 会長）

【事務局】

阿部祐之（企画部 政策調整担当/部長）

府川一彦（企画部政策調整課/課長）

田邊周一（企画部政策調整課/副課長）

長崎真治（企画部政策調整課/未来創造係/係長）

石渡陽介（企画部政策調整課/未来創造係/主査）

田村将洋（企画部政策調整課/未来創造係/主任）

【庁内検討会議メンバー】

浅岡龍馬（小田原市商業振興課/主査）

川久保純（小田原市観光課/主任）

秋山真生（小田原市水産海浜課/主事）

鈴木元（小田原市都市政策課/係長）

【業務受託者】

池田晃一（株式会社T I T）

田中大朗（株式会社T I T）

安部遥香（株式会社T I T）

4. 資料

- ・ 本日の次第
- ・ 出席者名簿
- ・ 資料1 第1回研究会資料
- ・ 資料2 エリアブランディング資源マップ
- ・ 資料3 関係者別調整スケジュール
- ・ 参考資料 まち歩き参加者の意見等（小田原ガイド協会作成）

5. 次第

- 1 あいさつ 小田原市政策調整担当部長 阿部 祐之
- 2 自己紹介
- 3 事業概要について
 - （1）事業目的
 - （2）エリアの現況

(3) 事業の進め方

(4) 本日の会議のポイント

4 各種調査について

(1) 関係者ヒアリング調査

(2) 来訪者実態調査

(3) 住民アンケート調査

(4) 調査結果のまとめについて

(5) 今後の調査等について

5 意見交換

6 事務連絡

(1) 今後の流れについて

(2) 第2回研究会の開催日程について

6. 議題

■次第3 事業概要について

エリアブランディング構想（御幸の浜海岸・かまぼこ通り周辺）策定に向け、本事業目的、構想策定までの流れ、研究会の位置づけのイメージを説明。

（質疑・意見）

なし

■次第4 各種調査について

・ 配布資料「資料1 第1回研究会資料」「資料2 エリアブランディング資源マップ」「資料3 関係者別調整スケジュール」に基づき、政策調整課、業務受託者より説明。

（質疑・意見）

小田原サーフィ
ン協会（奥津）

・ 「ODAWARA BEACH PARK」の開催は今回で3回目となった。イベントに合わせて、御幸の浜海岸における来訪者実態調査を実施したため、来訪者はビーチで何らかの体験を希望する人が多く、結果にもそのような要望が反映されていると考えられる。

小田原かまぼこ
通り活性化協議
会（脇谷）

- ・ 御幸の浜海岸では、夏季には海水浴場として海の家が設置され、シャワーの利用も可能となる。一方で、期間終了後はシャワーが使用できなくなるため、イベントを増やしたり、夏以外の時期も継続的に利用するには設備が不足している。
- ・ 「小田原宿場祭り」の開催日に合わせ、かまぼこ通りの来訪者実態調査を実施した。
- ・ イベントでは、小田急線に広告を掲載したこともあり、県外からの来訪者が多く見られた。小田原市観光協会（以下「観光協会」）が実施したアンケートでも、かまぼこ通りは小田原市内の観光先として上位に挙げられている。しかし、訪れた来訪者がリピーターにつながらない現状がある。「また訪れたい」と思える通りにする必要があると強く認識している。

小田原かまぼこ
通り活性化協議
会（小西）

- ・ ほぼ毎日、浜辺にある店舗に常駐し、このエリアに訪れる人々の様子を観察している。店舗の開業当初、「小田原駅では海がすぐ近くにあることを誰も教えてくれない」という意見を多く聞いた。海が近いことを常に伝えるよう努めてきた。
- ・ エリア全体としてのPRが不十分と感じている。テレビ番組などをきっかけに興味を持って訪れた来訪者から、「今日はお店が閉まっているのですね」（実際は閉まっているのではなく店舗数が少ない）と言われることがあり、多くの店舗が軒を連ねるイメージと現状とのギャップを感じている様子に危機感を抱いている。イメージと現状とのギャップから、せっかく足を運んでもらってもリピートにつながらないのではないかと。
- ・ 空家や空き店舗の対策に、行政と協力して取り組んでいる。地域住民からは「もっと店舗を増やしてほしい」と叱咤激励を受けるが、思うように進まないもどかしさがある。
- ・ 若者の中には、このエリアの混雑していない穏やかな雰囲気の魅力を感じる人も多い。単純に商業化を進めることが最善とは限らない。何を残し、どこを改善すべきか、アンケート調査結果も踏まえ、慎重に検討することが重要と考えている。

小田原市観光協
会（瀧澤）

- ・ PRが不足していると感じている。かまぼこ通りについて問い合わせを受けた際、来訪者が抱くイメージと実際に訪れた際の印象にギャップがある。
- ・ かまぼこ通りと聞くと、鎌倉の小町通りや川越の蔵通りのような観光地を想像する人が多い。観光向けの通りも魅力的だが、かまぼこ通りは、観光の風景と地域住民の日常が交じり合い、

小田原ガイド協
会（川瀬）

- 小田原ならではの魅力を持つエリアと感じている。しかし、その魅力をどう PR すべきかが難しく、もどかしさを覚えている。
- ・ガイド中に聞いた来訪者の意見をまとめた。ほとんどは、これまでに挙げた意見と同様の内容である。
 - ・かまぼこ通りは東西に分断されており、レンタサイクルの導入が有効ではないか。
 - ・かまぼこ通りで昼からお酒を楽しみたいという意見がある。
 - ・道路が狭いにもかかわらず交通量が多く、車のスピードが出ているため、ガイドをしても危険を感じる。
 - ・きれいなトイレや腰を掛けて水分補給や軽食を取れる場所があると良い。
 - ・観光客は非日常を求めて訪れるため、景観が重要であり、できるだけ古い建物を残してほしいという声が多い。
 - ・蒲鉾は本店で購入したいという意見が多く、老舗の店で説明を受けることで「良い買い物ができた」と感じる来訪者が多い。
 - ・「川越のような古い町並みや城下町はどこか」とよく尋ねられる。小田原宿なりわい交流館（以下「なりわい交流館」）前にある小田原早川上水のレプリカのように、昔の宿場町や漁師町をイメージできるものがあると良い。
 - ・案内板について、なりわい交流館にある旧東海道の図や、旧魚市場の昔の様子、大正時代を描いた絵は目を引く。一方で、文字のみの看板は素通りされがちである。視覚的にわかりやすい図を取り入れることで、情報が伝わりやすくなる。
 - ・現在の地図はまち歩きに適していない。板橋地区の手書きイラスト入り地図は良い例であり、かまぼこ通りならではのオリジナル地図を作成すれば、記念品にもなり、集客にもつながる。
 - ・ガイドの参加者は、かつて小田原に住んでいた人、市外からのリピーター、早川地区住民などがいる。参加者から「地元の人でも知らないことを知ることができた」との意見が聞かれる。
 - ・海を見ることを目的に、海のない県から訪れる人が多い。
 - ・周辺で食事ができる場所についてよく尋ねられる。鉄道を利用して来た人は駅周辺へ誘導することが多く、結果として食事後の観光意欲が薄れてしまう。一方、車で訪れた人は早川方面へ向かう傾向がある。御幸の浜周辺に店舗が増えれば、より多くの来訪者をかまぼこ通り周辺へ誘導し、滞在時間の延長や回遊性の向上につながると考えられる。

小田原ガイド協会（橘川）	・ 外国人のアンケート結果は、日本人の感覚とは異なり、興味深い内容となっている。彼らは日本の魅力を強く感じており、独自の視点から評価している点が特徴的である。
万年地区住民代表（竹田）	・ 個人として感じていることは、住民の皆さんも同様に感じていると思った。このエリアでは、松原神社のお祭りが活発に行われており、これを全国的に PR し、観光資源として活用していきたいと考えている。行政との連携には難しい部分もあるが、今後も協力していきたいと考えている。
幸地区住民代表（柏木）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三の丸小学校で PTA 会長を務めており、PTA から意見も聞いた。少子化の中、三の丸小学校は市内で最多の生徒数を誇る。万年地区や幸地区の人口にも関係していると感じている。 ・ 子どもの居場所に関して、来年度に学童が廃止される方向があり、保護者たちも安心・安全な場所を外に作るために努力している。南町には新たに居場所ができた。ワークショップにはそのような人たちにも参加を呼びかけたいと考えている。 ・ 地域に長く住んでいると、居心地が良く、ヒアリングで課題を聞かれてもピンとこない。新規移住者は地域の魅力を見つけやすく、積極的に活動に参加している。道路の危険性を感じる人は多く、PTA でも道路改善を求める声が上がっている。 ・ 他の地域と比べても、人のつながりが強い地域だと感じており、子どもたちの見守りに関しても強いネットワークがある。 ・ 歴史に関しては自分でも知らないことが多かった。他の人の話を聞くことで、地域に魅力がたくさんあることを再認識した。 ・ 小学校の遠足に関しては、行き先を決めるのが悩ましいところであり、電車での遠出は先生の負担が大きく、遠足の廃止が検討されていると聞いた。地元にもたくさんの魅力があるので、学校にもフィードバックしていければと思っている。

■次第5 意見交換

次第1～4に基づき、意見交換を実施。

（質疑・意見）

宮小路商店会（水野）	・ 預かってきた意見を共有したい。長年店舗を経営され、夏には御幸の浜海岸で海の家を運営されている方から「御幸の浜プールの使用されていないプール部分を、早期に駐車場化すべきではないか」との意見が出ているが、いかがか。
------------	---

企画部政策調整課（田邊）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 御幸の浜プール跡地を駐車場にするという意見がある一方で、住民アンケートの結果を見ると、プール機能を継続してほしいという意見も多く寄せられている。地元住民として、周りからの声も含め、皆様のご意見をいただきたい。
万年地区住民代表（竹田）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私の意見がすべて住民の意見ではないが、私自身にも子供がいて、市営プールは非常に助かる存在で、近所の子供たちの居場所になっていると感じている。一方で、水漏れがあるなど、運営には厳しい状況もあることは理解している。 ・ 現在の施設を新しく作り直すのは予算面で厳しいと思う。今あるものをどう生かしていくかが重要だと思う。例えば、冬の間に水を張って釣り堀として利用するなどの意見も出ている。様々な方向性を研究会で話し合えたらと思っている。
幸地区住民代表（柏木）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の小学校でも、プールが老朽化しており、修繕を行わない学校も増えてきている。そのような学校では、時期をずらして他の場所のプールを利用する方法を取っている。三の丸小学校でも夏休み前に他校が水泳の授業を行い、三の丸小学校の児童は9月に水泳の授業を行った。本来、夏休み前に学ぶことが大切だが、今年度はそれができなかった。市営プールがなくなると、夏のプール活動の場がなくなり、子どもたちの行き場が失われてしまう。さまざまな方法でプールを有効に活用しながら、運営を続けるためのアイデアがあれば、提供していただきたい。
企画部政策調整課（田邊）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海岸イベントを行う立場としては駐車場についてのご意見はあるか。
小田原サーフィン協会（奥津）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 御幸の浜プールは駐車場としての立地が良いと感じている。しかし、浜のすぐそばに車を停めるよりも、浜まで歩いていきたいという人も多く、その点も考慮する必要がある。 ・ サーフィン協会の若手からは、御幸の浜プール跡地をスポーツジムやスケボー場、フットサル施設、グランピング施設、多目的イベント広場、フリーマーケットなどに再利用する方が、現在の施設をより活かせるのではないかという意見が出ている。夏以外の時期にも通年イベントを開催することで、御幸の浜海岸がよりにぎわうのではないかと考えている。 ・ 現在、イベント時の駐車場としては、旧保健所跡地を利用している。市の所有地だが、手続きを行えば安価に使用できる。道具を運ぶ距離は少しあるが、相当数の車が停められ、問題なく

小田原市観光協会（瀧澤）

運営できている。

- ・観光協会には、ネットで情報を探することができない高齢の観光客からの、電話での問い合わせが多い。多く寄せられる要望としては、「小田原城にバスで行きたい」「歩くのは大変なのでバスで観光地を巡りたい」というものがある。かまぼこ通りについては、端から端までお店が密集していると説明しやすいが、実際にはお店が離れているため、案内がしづらいのが現状である。
- ・車で訪れるお客様に対して、かまぼこ通りには駐車場がないため、かまぼこを購入したいという場合は、確実に駐車場があるミナカ小田原を案内することが多い。

小田原蒲鉾協同組合（杉山）

- ・かまぼこ通り東側では、駐車場が足りていないとは感じていない。駅からも距離があるため、歩いてくるお客様も少なく、孤立している印象がある。それぞれの店舗には駐車場があるので、現状、駐車場に困っているという状況ではない。

小田原かまぼこ通り活性化協議会（小西）

- ・エリアごとに違いはあると思う。私のお店の前は車が絶え間なく通行している。近くには3台分だけコインパーキングがあるが、駐車場の取り合いになっている。近くまで来てUターンしていく車も多い。宮小路の駐車場へ案内することが多いが、車を止められずに、漁港へ行くという選択肢を取る方もいる。
- ・だからといって、御幸の浜プール跡地を駐車場に整備することをすぐに決めるのはどうかと思う。もっと議論してから結論を出すべきだと思う。

青物町商店会（野澤）

- ・青物町商店街で商売をしている。アンケート結果にあるアンケートの老朽化は青物町商店街の意見である。観光寄りの商売と地域寄りの考えを持っているが、観光商売としては鎌倉の小町通り、川越、京都などの方が儲かるのは事実である。
- ・地域のお祭りには積極的に関わっている。私自身、地域に思いがあるからこそ一生懸命やっている。小さな地区で2台のお神輿を維持できていることは素晴らしい。地域の人々が好きだからこそ続けている。
- ・合理的に考えれば駐車場は便利であるが、駐車場が必要なのはどのような人なのか、どのような効果があるのかをしっかりと考える必要がある。
- ・私にも子供がおり、地域を住みやすくするために尽力したい。
- ・御幸の浜プールの活用（維持）については、財政的にも健全な

企画部政策調整
課（田邊）
小田原かまぼこ
通り活性化協議
会（脇谷）

小田原市観光協
会（瀧澤）

宮小路商店会
（水野）
商業振興課（浅
岡）

内容で進めるべきである。駐車場も必要であるが、プールも地域の財産であり、夏はプール、冬はスケボーパークなど、既存施設をうまく活用して、観光客だけでなく地元の人も訪れたいような地域づくりを目指すべきである。

- ・ 御幸の浜プールと駐車場をテーマに意見交換させていただいたが、他に意見交換したいテーマがある方はいるか。
- ・ アンケート結果および資料 2 の資源マップにも記載されているが、かまぼこ通りは東西 400 メートルの長さがあり、その両側に商店が集中している。東側には駐車場が十分にある一方で、西側には駐車場が不足しており、まち歩きをするにはコンテンツや魅力が分散している傾向がある。店舗新設はコストがかかるため難しいが、軽食を提供する施設やなりわい交流館のようなランドマークが東西の中間地点に設置されると、利便性が向上するのではないかと考える。ご意見を伺いたい。
- ・ かまぼこ通り周辺は、住民の日常と観光客の非日常が交差する地区であり、その点が非常に魅力的に感じる。
- ・ 最近、観光協会の会議で、真鶴町の「美の基準」のパンフレットを拝見した。住民が日常的に井戸端会議を開く場所や、何気ない植物がある場所などが真鶴町の良さとして紹介され、非常に素晴らしいと感じた。この地域でも、観光目的の特別な施設を作るのではなく、日常的に住民が暮らし、小学生やお年寄りが歩く風景を楽しむこと自体が観光資源となると考えられる。
- ・ これまでマイナスに感じられていたことをプラスに捉え、地域に対する住民の愛情や情熱が伝わるようになることが重要である。お金をかけることよりも、地域の魅力を自然に感じてもらえるような取り組みが求められると考えられる。
- ・ かまぼこ通りの中間に空家があるかは不明だが、空家を活用して飲食店などの出店を促進する補助金や支援制度はあるか。
- ・ 空家や空き店舗に関する補助金として、商業振興課では「空き店舗活用補助金」という事業を実施している。本事業対象エリアも補助金の対象地域（小田原駅周辺エリアまたは箱根板橋・南町周辺エリア）に含まれており、空家や空き店舗の改修費用や新しい事業者が自店舗の PR に対する補助を受けられる可能性がある。
- ・ しかし、現在、活用は年に 1～2 件にとどまっている。地域からの需要が高まれば、県や国に補助額の増額などを要望できる。

小田原箱根商工会議所（飯田）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空家や空き店舗があれば、商業振興課に知らせてほしい。 ・ 小田原市が登録している特定創業などの支援をしている。 ・ 商業地域である、飲食店のオープンも可能である。市がそのための基盤を整備していただければと思う。所有者が貸すという発想がない場合、店舗を貸すための設備不足の場合などがある。このような課題に対し、地域全体で協力し、活性化を促進するアイデアがあれば、今後の発展に繋がると考える。
企画部政策調整課（田邊）	<ul style="list-style-type: none"> ・ その他、今回の事業や調査結果について率直なご意見があればお聞かせいただきたい。
小田原市漁業協同組合（鈴木）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実家が事業対象エリアにある。私は現在住んでいないが、ここ10年で周辺が大きく変わったと感じている。特に、人が増えたことを実感している。 ・ まちづくりの観点からは良いことだと思うが、住みにくくなったと感じることもある。 ・ かまぼこ通りの事業者が地元住民と交流を持つことは良いことだと思う。
企画部政策調整課（田邊）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民アンケート調査では、実施してほしい取り組みとして地引網イベントが挙げられているが、御幸の浜海岸で地引網を実施することは可能であるか。
小田原市漁業協同組合（鈴木）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施しようと思えば可能である。人手と時間、そして小さな船があれば行うことができる。ただし、魚がどれくらい取れるかは予測できない。
万年地区住民代表（竹田）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の幼少期には、地引網を行った記憶がある。 ・ 地引網を実施しようとする、二宮海岸や茅ヶ崎を考えていたが、御幸の浜海岸で行えるのであれば、地元の人々との交流にもつながるのではないかと思います。
幸地区住民代表（柏木）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地引網というアイデアが出たことはあったが、関係者以外から現状では不可能と聞いて、それを真に受けてしまっていた。
小田原市漁業協同組合（鈴木）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 御幸の浜海岸の地形は確かに変わった。陸から沖の範囲が狭くなっており、網を張れる範囲も短いため、魚が取れるかは不確かであるが、実施自体は可能である。

■次第6 事務連絡

（1）今後の流れについて

第2回研究会実施までの流れを説明。

(2) 第2回研究会の開催日程について

10月6日～10日の間で調整予定

(質疑)

宮小路商店会
(水野)

- ・ 水曜日が定休日のため本日は参加できたが、自分の店は営業時間が20時からであるため、次回開催が18時からであれば、短時間の参加となってしまう。その場合は別の形で意見したい。

企画部政策調整
課(田村)

- ・ 日程、開始時刻等についてはまた改めて個別に調整する。
- ・ アンケート内容、ワークショップについても個別にご意見を伺いたい。

以上